シリーズ

「私の森語り」

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。

「組手でつなげる支援　東北＋熊本＋能登」

ながさか工房
長坂　洋

■自己紹介

製材業の三代目、先代の死去に伴い製材業を廃業。木工業に従事し、壁材の下地として使われる胴縁材を使った製品開発に参加。

同縁材から断面四〇×一五ミリメートルの細い平板を取り、組手を加工して棒状の組立部材とした「組手什」を始めて十三年。加工機を製作し、自社生産を始めて十年となり、「組手什おかげまわし東海」の代表を務めています。

■活動内容

組手什は、いろいろな場所でたくさん作って広めていただきたいと考え、著作権を放棄しています。

令和六年一月、能登半島地震発生後にいち早く（公社）国土緑化推進機構が「緑の募金」復旧支援使途限定募金（地震災害）として、組手什による避難所等の支援を決め、（公社）石川県木材産業振興協会の古谷理事が現地コーディネーターを担い、宮城県の登米町森林組合の竹中参事からは、東日本大震災の経験を生かした指導・助言をいただきました。

災害備蓄用の組手什（土岐市）

初動は一月十七日でした。岐阜県土岐市からの災害備蓄材の二千本と宮城県の二拠点からの二千本に加え、続けて愛知、滋賀、栃木から組手什が届きました。また、すぐに金沢市で生産が始まり、四月中旬までに二万本以上の組手什が届いています。

支援活動には、熊本震災支援のノウハウが生かされています。始めに公共スペース用への下駄箱・整理棚などを被災者と一緒に組み立てて、組手什の便利さと楽しさを知っていただき、その後に個別スペースの小さな整理棚を提供するという流れができました。

奥能登は少子高齢化が進む小さな集落が多く、小規模な公民館などに避難所が開設されています。そのため、公民館の通路に配置できるサイズの下駄箱、収納棚などが重宝されました。テレビ小説のセリフのごとく「何にでもなる魔法の材料」として活躍しています。

避難者からは、「辛いことも多いけど、一緒に対話しながらものづくりをして、それが形になるので前向きになれる！」、「子どもも女性も、自分たちで欲しいものを自分たちで考えて作れる。」、「ボランティアの方々とも一緒に話しながら作品を作れるので、関係性づくりにも良い！」などの声が聞かれました。

七尾市内

輪島市内

■メッセージ

ネット検索では、あちこちでの組手什のイベントがヒットします。

今後は、能登での事例を携えて、各地へ災害備蓄と協働支援を呼びかけていきます。

■連絡先
愛知県名古屋市
東区矢田東一－七
ながさか株式会社内
https://nagasaka.nagoya/

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第37回

中部森林管理局総務課
井上（いのうえ）　日呂登（ひろと）

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「裏木曽」その一

裏木曽とは

東濃森林管理署管内、現在の中津川市の北東部の森林地域はかつて、「本木曽」「表木曽」と呼ばれた信州側の木曽地域に対して阿寺山地を挟んで「裏木曽」と呼ばれました。江戸時代のこの地域（濃州恵那郡加子母村、付知村、川上村）は木曽地域と同様に尾張藩領であり、時代によって、「裏木曽三ヶ村」「濃州三ヶ村」などとも呼ばれました。

裏木曽の古写真（昭和10年代頃）

信州側の木曽地域と同様にヒノキ・サワラといった有用な針葉樹資源に恵まれたこの地域の森林の多くは、明治時代の半ば以降は帝室林野局の御料林となります。特に優れた天然ヒノキ材を産出してきたため、近現代の「木曽ヒノキ」の名声の一定部分はこの地域が担ってきたという見方もできます。

昭和20年代に撮られた現在の付知裏木曽国有林（東濃森林管理署管内）

付知川に於ける材木伐出の沿革と繪解

昭和二十八年、付知営林署（現・東濃森林管理署）より「付知川に於ける材木伐出の沿革と繪解（えとき）」という資料が刊行されます。本というよりは、上・下巻、折り畳み式の絵巻物といった感のある独特の構成となっています。

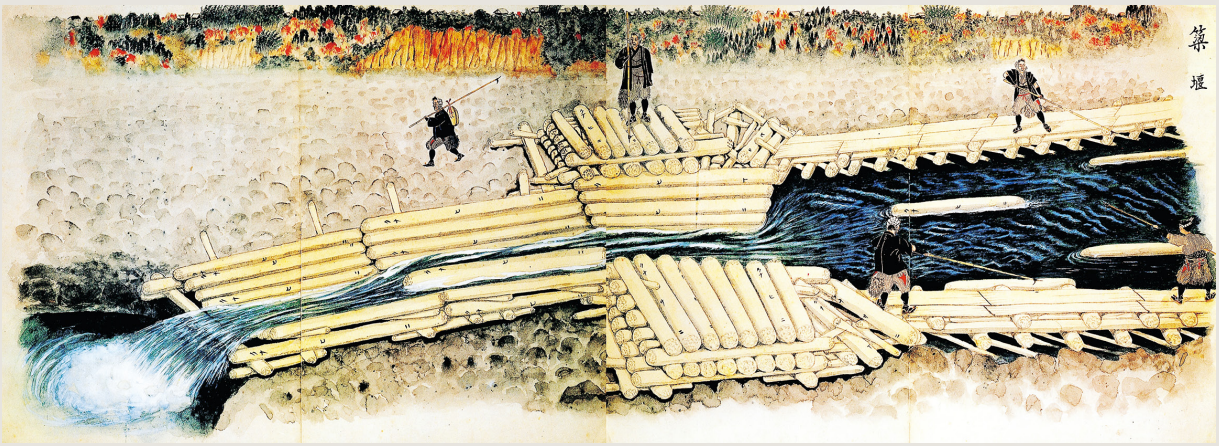
この資料は裏木曽における機械化以前の伐木運材を描いたもので、特に付知川での流材（りゅうざい）（川に浮かべた木材をバラバラに流すこと）の最盛期である明治末期から大正初期が舞台となっています。

「付知川に於ける材木伐出の沿革と繪解」上・下巻

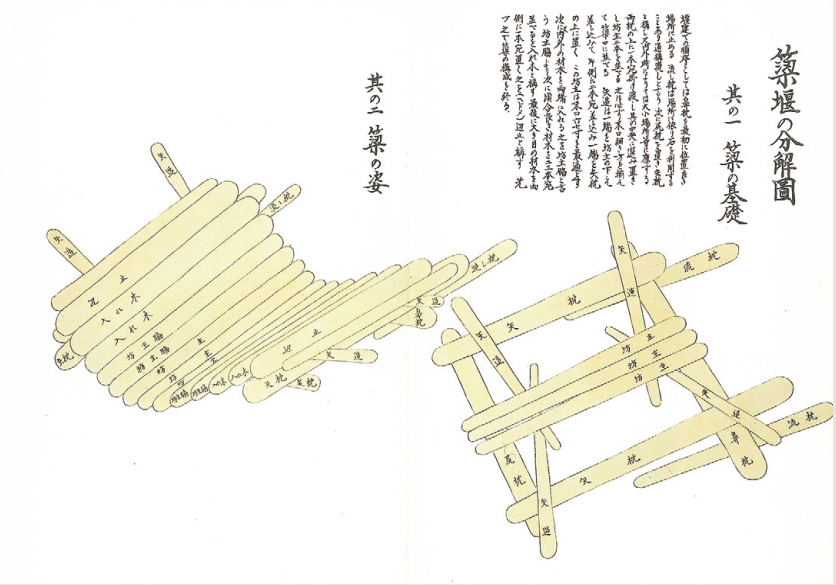
この資料は当時の付知営林署長からの依頼により、編集・監修を「三千年物語：付知のあゆみ」の著作がある三尾箕山（金三）氏、画・筆者が牧野彪六郎氏（当時付知営林署職員）、資料の収集に元「総杣頭」であった熊崎元義氏の協力を得て製作されたとされます。

木曽・飛騨地域の古い林業風景を描いた絵図として「木曽式伐木運材図会」（中部森林管理局所蔵）が知られていますが、これの裏木曽版を作ろうという意気込みもあったようです。

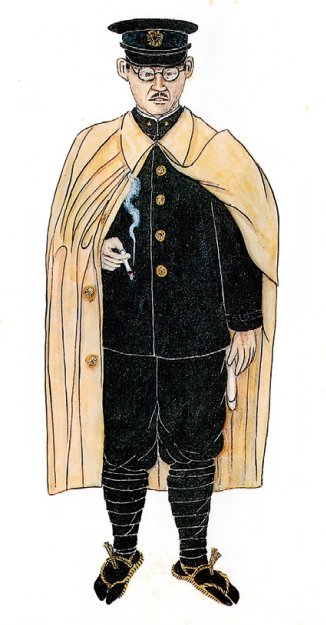
江戸時代後期の伐木運材風景を描いた「木曽式伐木運材図会」とは共通する部分もある一方、明治・大正時代の服装・風習が見られ、また運材に用いる設備の分解図などは大変詳細に描かれているのが特徴です。



「付知川に於ける材木伐出の沿革と繪解」より“築堰（やなせぎ）”（丸太を水に浮かべて運ぶしかけの一つ）



「付知川に於ける材木伐出の沿革と繪解」より“築堰の分解図”



「付知川に於ける材木伐出の沿革と繪解」より“技手”（帝室林野局職員の制服姿）

資料の発行数が限られ、折り畳みの絵巻物風という独特の構成、専門的な説明が取っつきにくいからでしょうか、これまであまり注目される機会の少なかった資料でもありますが、描かれている舞台である明治末期から既に百年以上、製作されてからも既に七十年が過ぎ、今後ますます、往時の林業風景を伝えてくれる貴重な資料となってくると思われます。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むか～しの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、コードを読み込んでください。

シリーズ 中部の保護林（第37回）

クロベが主体の貴重な天然林

笠山クロベ希少個体群保護林

設定目的

笠山（一、五五三メートル）にはクロベ（ネズコ）を主体とし、ウラジロモミやカンバ類等が混交する天然林が見られます。

クロベを主体とする天然林は学術的に貴重であることから、保護林としてこの個体群の保護・管理をしています。

地況・林況

当保護林は、飯縄山（一、九一七メートル）の南西にある笠山の西斜面に位置しています。周辺は飯縄山の火山活動で放出された火砕岩が堆積し、あまり土壌が発達していませんが、その急斜面にクロベが群生している点が大きな特徴です。

将来は土壌が安定するにしたがい、コメツガが優占する群落へ遷移していくと考えられています。

所在地
長野県 長野市　戸隠豊岡

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課　ダイヤルイン：026-236-2612

※詳細は、コードを読み込んでください。

青山林野庁長官が木曽・東濃地域を視察

五月一日から二日にかけて、青山林野庁長官が、木曽及び東濃地域を訪れ、現地視察や関係者との意見交換を行いました。

初日は、木曽署管内の赤沢自然休養林内の施設や木曽ヒノキ林を見学し、その後、令和三年度木材利用優良施設コンクール「林野庁長官賞」を受賞した木曽町役場庁舎を訪問しました。「出梁造」という木曽地域の伝統工法を用いた長大な木造平屋建ての庁舎は、地元産のヒノキやカラマツなどの無垢材を現しで配した明るく開放的な施設でした。

また、木曽郡６町村長と、地域の林業の活性化に向け、現状と課題、将来に向けた展望等について意見交換を行いました。

木曽町役場庁舎内

翌日、東濃署管内では、将来、歴史的木造建築物の修復等への利用を想定している「裏木曽古事の森」において、高齢級のヒノキ人工林の整備状況を視察しました。

続いて、令和五年度の同コンクールで「文部科学大臣賞」を受賞した中津川市立福岡小学校を内覧しました。地域経済の循環を意識して、木材の調達から製材まで地元の業者により建てられた校舎は、肌触りの良い柱が森の木々を想起するように配されており、広い空間に子供たちの明るい声が響く、木の温もりに満ちた施設でした。

中津川市立福岡小学校校舎内

山火事にご用心

令和六年に入り、大規模な山林火災が発生しています。一月に広島県江田島市で二四三ヘクタール、四月に岩手県宮古市で一八〇ヘクタール、五月上旬には山形県南陽市で一三七ヘクタールの山林が焼失しました。長野県内でも五月の連休中に、松本市で山林火災が発生しています。

全国では平均すると一年間に約一、三〇〇件の山火事が発生し、その約七割が冬から春（一月から五月）に集中しています。春先の山火事は山菜採りや行楽で山へ入る人が増加することや、農作業での枯草焼きによる飛び火などが原因となっています。ひとたび山火事が発生すると消火するのは非常に困難で、広範囲の森林が失われるだけでなく、回復するまでには長い年月と費用が必要となります。

山火事のほとんどは人間の不注意から発生しています。一人一人が火の取扱いに注意することで山火事を未然に防止していきましょう。

編集長だより

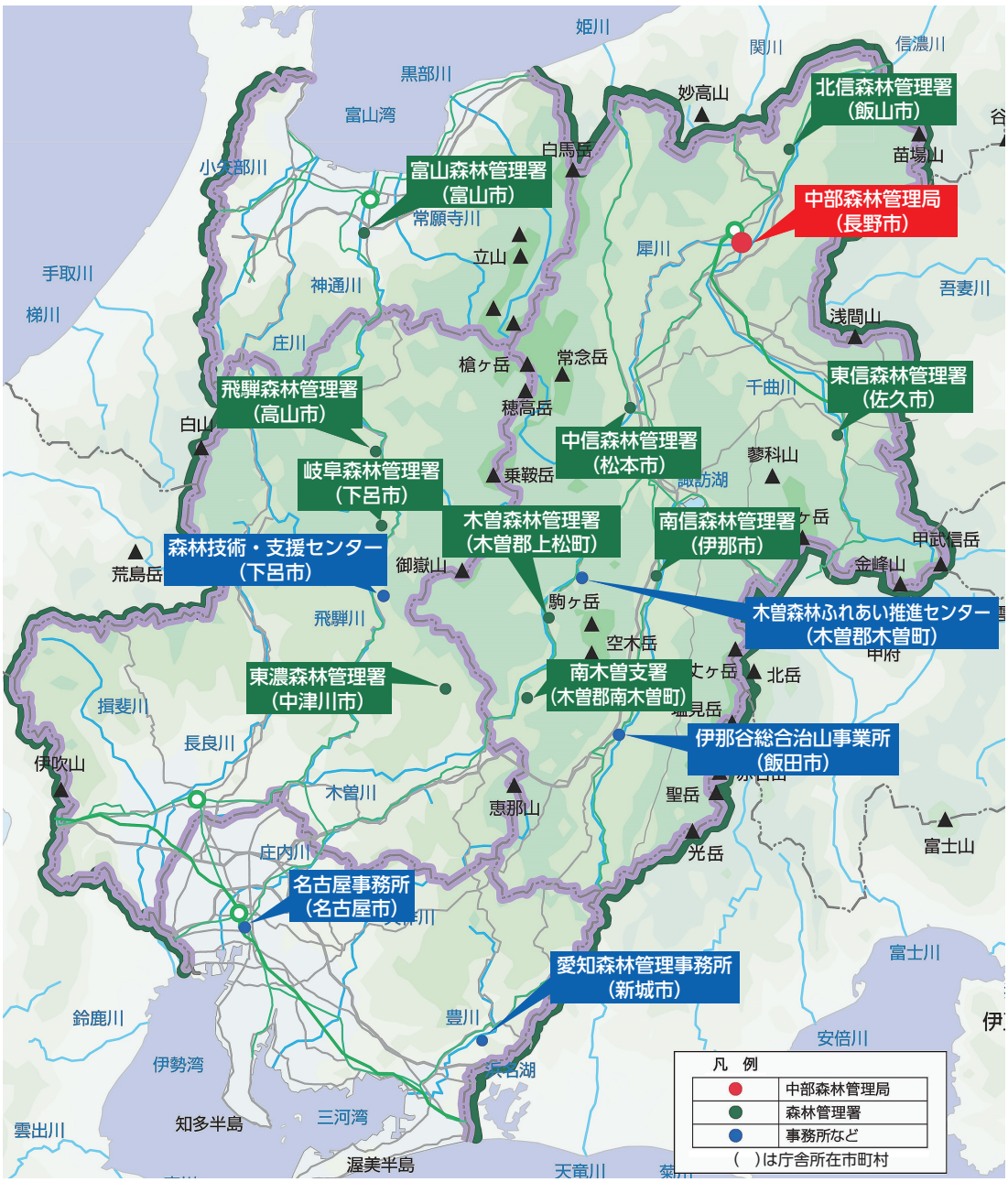
（中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、**migoro@maff.go.jp** まで電子メールでお送りください。）

♪屋根より高い鯉のぼり～♪とご対面する機会は少なくなり、最近はもっぱら、河川の両岸に張られたワイヤーに大集結する形でお見かけします。子どもの成長とともに、押入れや物置の奥へと追いやられていたであろう多くの鯉たちが、再び風を受け、所狭しと大空を泳ぐ様子は、すでに5月の風景として定着しているのでしょう。

その５月、さわやかで気持ちのよい季節のはずですが、今年は春先から気温の変化が大きく、冷え込みが戻ったり真夏日になったりと、この時期本来の天候や気温がわからなくなっています。そうした中、４月から新しい場所での生活がスタートした方にとっては、少しずつ緊張の糸がほぐれてくる時期でしょうか。いやいや、まだ張りつめている、という方もいらっしゃるかもしれません。風薫る５月、気分転換も兼ねて青空に泳ぐ鯉を探しに出かけてみませんか。メザシでないことを祈りながら。

山火事防止のシンボルマーク　まといリス

林野庁では昭和49年（1974年）に山火事防止アニメ映画「リスのまとい」を製作しました。主人公のリスは山火事防止のシンボルマークに制定されています。



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。

中部森林管理局
ホームページ

広報
「中部の森林」

用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市臼田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒 380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
（毎月 10 日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります）
登録サイト https://mailmag.maff.go.jp/m/entry

本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。